

2018年12月2日

アドベント第1週礼拝説教要約

神のことは永遠に立つ

(イザヤ書40・1-8)

一、神の言葉とは何か

アドベント(待降節)に入りました。一人ひとりが神の前に整えられるべく、創造主の語りかけに耳を傾けてまいりましょう。

預言者イザヤが居た場所は、39章まではバビロン軍によって滅ぼされる以前の南王国ユダです。40章は、39章の二百年ほど後の時代になります。預言者が居た場所はイスラエルではなく外国の地、ペルシヤ帝国の支配下にある地域でした。40章に登場する預言者「イザヤ」は、これまでのイスラエルの歩みを振り返り、感慨深く、主なる神の働きに思いを馳せています。すなわち、「あれほど強力だったバビロン。先祖をイスラエルの地からバビロニア帝国の諸都市に捕らえ移した国家も衰退し、ペルシヤの支配下に移った。そして、ペルシヤのクロス王はどうやらイスラエルに対して好意的に見える。見えない神の働きが、確実になされている」と。預言者は、そこに神の言葉、すなわち神が語られた言葉を受け取っています。6節後半から7節を見てまいります。

「すべての人は草、その栄光は、みな野の花のようだ。主のいぶきがその上に

吹くと、草は枯れ、花はしぼむ。まことに、民は草だ。」と。「すべての人」とは「すべての肉なる者」の意味です。南王国を滅ぼしたバビロニア帝国も含まれます。そうしますと、人は栄華を極めても明日はどうなるか分からない、そういう存在であると語られています。

二、イザヤにおける神の言葉

私共が住んでいる世界を造り、命を生み出し、それを保っておられる創造主は、何を思っておられるのでしょうか。それは、私共の関心事です。旧約、すなわちイエス・キリストを信じる者から見て旧契約の下で生きたイスラエルは、律法(トーラー)が神の言葉であると受け止めました。律法の中心は、出エジプト記に書かれているシナイ山における、主なる神とイスラエルとの契約です。こうしてイスラエルの預言者は、申命記に書かれているとおり、律法に従えば祝福やってくる、背くなら災いと呪いがもたらされると教え続けました。預言者たちは、自分たちの先祖の歴史を振り返りました。ダビデ王・ソロモン王が築いた王国が、ソロモンの息子レハブアム王の時代に、なぜ北王国と南王国に分裂したのか。その理由は、律法に従わなかったからであると受け止めました。その後、北王国がアッシリヤ帝国に滅ぼされたのはなぜか、律法に従わず、偶像に仕えたからであると

断定しています。その後、南王国がバビロニア帝国に滅ぼされたのはなぜか、律法に聞き従わなかったからであるとメッセージを語り続けました。しかし主はいつまでも怒ってはおられない。慰め、傷をいやし、回復される方であると、預言者は語っています。そういう背景を知りつつ、1節、2節をご覧ください。「慰めよ。慰めよ。わたしの民を」とあなたごがたの神は仰せられる。「エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その労苦は終わり、その咎は償われた。そのすべての罪に引き替え、二倍のものを主の手から受けたと。」この預言の言葉は神からの慰めの言葉です。先祖が犯した罪に対する償いが終了した、あなた方は回復される、というメッセージです。その言葉が、神の言葉として外国の地に居るイスラエルの民に語られました。ですが、この言葉はイスラエルの預言者の考え方が反映されています。なぜなら、イスラエルが苦しんだのは律法に従わなかったからであるという、因果応報的な考え方が根底にあるからです。そういうわけで、預言者イザヤは神の言葉を語ったとは言っても、どこか不足がある、欠けがあるわけです。その不足、ないし欠けは、後に遣わされるイエス・キリストという神の言葉を指し示す働きをしています。

三、神の言葉なるキリスト

結局のところ、私たちの世界に完璧な神の言葉はありません。神の言葉は、人として生まれられた神であるイエス・キリストご自身です。ヘブル書1章3節が語っているとおり、神の言葉の完全な現れがイエス・キリストです。そういう、新約のメッセージを知った上で、イザヤ書を見ますときに、聖句が光輝いて見えてまいります。8節をご覧ください。「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠に立つ。」イザヤが語った「私たちの神のことは」とは、イエス・キリストご自身です。主イエスを信じる信仰は時代が変わるうともすたれませんが、世にあつて様々な試練に遭遇します。信仰を持ったなら試練が減るのでしょうか。決してそんなことはありません。信仰者にも悩みはたくさんあります。ですが、使徒パウロは語っています。「コロリント6・9b-10死にそうでも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。」と。これが、私たちの姿です。

私たちは最高の幸いを主イエス・キリストからいただきました。私たちに、最高のものを授けてくださった主イエス・キリストを思いつつ、アドベントの時を過ごしたいと思います。